

平成28年度
市長懇談会
「庄原いちばん談議」
(認知症の人を支える家族の会・庄原)

平成28年 10月 6日 (木)
19:00~20:00 愛生苑

1 開 会

2 あいさつ

3 意見交換

懇談テーマ：暮らしの安心・安全／保健・福祉

○認知症の人を支える家族の会・庄原「橙の会」の活動について

資料1

○提案に係る質問事項について

4 閉 会

—— 認知症になっても一人暮らしになっても

日本一安心して暮らせる町をめざして ——

平成 28 年 10 月 6 日（木）庄原いちばん談義

認知症の人を支える家族の会・庄原「^{おんじ}橙の会」

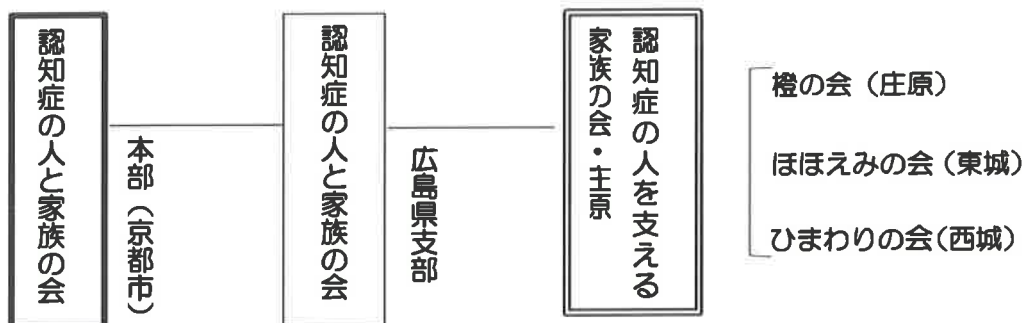
1. 認知症の人を支える家族の会・庄原「橙の会」の紹介

1) 基本理念

本会は、認知症の人とその家族が、憲法に保障された基本的人権を尊重され、社会の一員として何ら支障なく暮らしていける地域づくりを目指し、絆を深める自主運営の会とする。

2) 組織概要

(組 織 図)



- ① 設 立 平成 24 年 5 月 18 日
 ② 事務局 庄原市上原町 1810-1 愛生苑内 (☎ : 0824-72-8686)
 ③ 会 長 渡 邊 蓉 子

- ④ 会 員 (22 名) (認知症介護経験者 (現在介護中も含む) ・市民 ・ ・ 17 名
 専門職 (医師、認知症介護アドバイザー ・ ケアマネ他) ・ ・ 5 名)

- ⑤ 活動の柱 イ) 語らいと親睦の機会を持つ(ピアサポート)
 ロ) 認知症の正しい理解のための学習や啓発の機会を持つ
 ハ) 認知症の人を支える家族の個別相談に対応する
 ニ) 国、県、市の認知症施策や社会の動向を学ぶ

- ⑥ 活動内容 (定例会 ・ 認知症カフェ “とんぼ” 開催
 ・ 交流研修会 (東城、西城、庄原) ・ 随時研修会
 ・ 世界アルツハイマーデー ・ 家族の会記念大会参加)

2、 現状の成果と課題

1) 成 果

① 「認知症」理解の普及拡大

認知症サポート医である戸谷完二先生や認知症介護の第一人者とされる和田行男氏による研修会の開催とともに、両氏が積極的に日常の会の集まりに参加されることにより、「認知症」についての基本的知識や実践的な知識を得ることが出来ています。また、専門職による状況に即したアドバイスにより、認知症の経過等についての理解を深めることが出来ています。さらに、会員から一般市民にその知識を普及していくことを進めており、認知症の普及啓発に一定の役割を果たしていると考えます。

② 広域な相談窓口としての役割

遠方居住の介護者からの相談を受け、地域包括支援センターとの連携により、該当者の状況把握や地域の見守りに繋げることが出来たという事例があります。地域を限定せず、家で閉じこもっている方やご家族への支援、具体的な不安の相談窓口としての役割を果たしていると考えます。

③ 認知症介護のご家族の負担感軽減

認知症カフェを訪問された介護従事者が、ご自身の介護の悩みを話し、先輩介護者や専門職からの話を聞かれる場面が多くあります。その後、「気分が楽になった」と介護の負担感の軽減を口にされることもあり、本会の存在意義を確認する事例もあります。

④ 認知症のご本人の発言の機会確保

茶菓子をいただきながら、年齢の近い会員と気軽な会話をすることで、認知症のご本人の笑顔や会話量が増え、主体的な存在としての姿を見ることが出来る場面があります。在宅で過ごされている認知症のご本人の、貴重な外出先の役割を果たしています。

2) 課 題

① 本会の関わりを真に必要としている人の情報把握不足

庄原市の認知症や独居の方の現状からみると、どこにも相談できず、また公的支援サービスに繋がらず悩まれている方は多いと推察されます。このような方の心の抛り所（ピアカウンセリング）となり、公的支援などの情報提供の役割を担いたいと考えますが、個別の情報把握ができず十分な役割が果たせていないと思います。

② 集うための交通手段の確保が困難

旧市内とはいえ広域であるため、対象である高齢者に声をかけて家族の会やカフェなどに参加を呼びかけても、交通手段がないと断られることが多い現状です。会員の個別送迎も検討しましたが、危険回避の考えから現在まで実施できずにいます。

③ 活動の限定化

本会は会費制のボランティア組織ですが、高齢化も進み会員が次第に限定化しています。紹介文書を行政窓口置き、講演会など機会あるごとに配布していますが、会員や参加者の広がりにはなかなか繋がりません。運営する認知症カフェも含め、家族の会の周知をさらに進め、相談やピアサポートのニーズにもっと応えていくべきと考えます。

3, 提 言

高齢者の5人に一人が認知症になるという時代。高齢化率40%超の庄原市は、日本の中でその最先端を走っているといっても過言ではないと考えます。これからは、認知症の人も、施設ではなく町や地域の中で、住民と関わりながら暮らし続けることを目指し、また余儀なくされる時代です。「認知症」を年齢を重ねたがゆえの症状であると理解し、生活の障害をみんなで支え合う時代です。「認知症の人を支える家族の会・庄原」、および同会の受託事業である「認知症カフェ」は貴重な社会資源です。これを、庄原市の認知症施策のなかに組み入れ、さらに皆さまに役立つ資源として活用していただくことを希望します。

(質 問 事 項)

- I、 「認知症カフェ」は、各市町で設置が進められていますが、認知症施策において、今後どのように活用していくお考えでしょうか？
庄原市としての関わり方も含め、その方向性をお示し下さい。

- II、 「認知症の人を支える家族の会・庄原」がもっと周知されるとともに、本会を庄原市の認知症対策にお役立て下さることを希望しますが、どのようにお考えでしょうか。